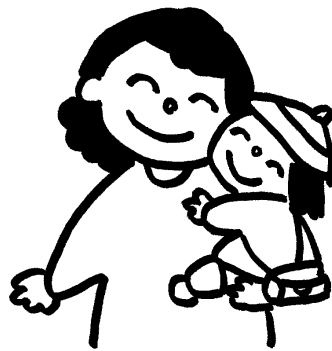


みんなの童話

やっほいおむかえちゃんがいい



からです。おかあちゃんがわらわら口の中の金ばや銀ばもまる見えです。

これはなんだか、かっこわるいと思えるようになってきました。

よそのおかあちゃんたちは、まさとくんのおかあちゃんのような大きな口を開けてわらいません。

そこで、まさとくんは考えました。

（そうだ、おかあちゃんがママに変身すればいいのだ）

つぎの朝です。

「ママー。おはようございます」

とつぜんのまさとくんのことはに、おかあちゃんは、はみがきの水を、コクンとのみこんでしまいました。

久しぶりのまさとくんの元気な声に、おかあちゃんも、

「おはよう」

とこたえました。

「おかあちゃん、きょうから、ママになるんだよ。どうしたらなれるか言うからね。よく聞いてね」

「おかあちゃんが、ママに…」

「そっだよ。ぼつしをかぶって、

むねにりぼんをつけて、ハイヒールをはいてください。それから、わらうときは小さく口を開けて、ウフフと言っただよ」

おかあちゃんは、まさとくんの言っとうりにしようと思いました。

保育園では、まさとくんは元気いっばいです。すなばでダムをつくるのも大せいこうでした。どろだんごも、かちかちのものがたくさんできました。

（おかあちゃんは、かっこいいママになるんだ）

そう思うと、おむかえがたのみでした。

家ではおかあちゃんが、おむかえのじゅんびでたいへんでした。

「ぼうし、ぼうし」と言いながら手にしたのは、しおひがりに行く時の、つばのひろいぼうしです。

「りぼんは……、あつ、そうそう。あれを」とむねにつけたのは入園式の時に買ったものでした。

じゅんびのできたおかあちゃん

は、ハイヒールをはいて、おむかえにでかけました。歩きながら、

「ウフフ、ウフフ」

と、なんどもれんしゅつをしました。

「せんせい、さようなら」

まさとくんは、みんなと外に出ました。でも、おかあちゃんのがたを見つけれません。

お友だちは、つぎつぎに帰っていきます。まさとくんは、かなしくなつてなみだがあふれてきました。

おかあちゃんは、まさとくんのところまで走って行きたいのです。でも、ハイヒールでは、ゆっくりと歩くことしかできません。

つばの広いぼうしは、風でとばされそう、おさえて歩きました。

やつと、保育園についたとき、

「おかあちゃん」

まさとくんが、とんで来ました。

「ごめんね、おそくなって」

おかあちゃんは、だきついたまさとくんを、だきあげました。むねにつけたりぼんは、くちやく

ちゃんになりました。それから、ぼうしもとつて、ほおずりをしました。

「おかあちゃん、おかあちゃんはママでなく、おかあちゃんがいい」

まさとくんは、だかれたおかあちゃんの中で言いました。

しるやま会員 むらた ともこ